

エリザバス女王杯

同舞台で行われた今年の宝塚記念も勝ち馬のタイトルホルダーは母父がサドラーズウェルズ。父も欧州型のドウラメンテ。

3着のデアリングタクトも父はサドラーズウェルズを持つエピファネイア。母父も欧州型のキングカメハメハ。欧州要素が強化されています。

今回のエリザバス女王杯では、牝馬ながら同舞台のG1 宝塚記念を好走した馬も参考になるでしょう。

20年21年の宝塚記念を連覇したクロノジェネシスは父が欧州型で凱旋門賞馬のバゴ。

19年に東京芝 2400mG1 勝ち馬のスワーヴリチャード、レイデオロ相手に優勝したリスグラシューも母系にサドラーズウェルズを持つ馬。

16年に同じく東京芝 2400mG1 勝ち馬のドウラメンテ、キタサンブラックを相手に優勝したマリアライトもサドラーズウェルズを持つ馬。

同コースで行われた過去2年のエリザバス女王杯も連対馬はすべて父か母父が欧州芝 2400m 以上の重賞で連対した馬。

本命はマジカルラグーン。

マジカルラグーンは父がサドラーズウェルズ系のガリレオ。

同種牡馬はサドラーズウェルズ系の中に留まらず、欧州競馬のなかでも最高峰の種牡馬。無敗でイギリス、アイルランドのダービーを両方制覇。種牡馬となっても産駒のG1 最多勝利新記録を更新したスーパーサイヤー。

阪神芝 2200mG1 は日本の主流要素を強化する必要のない舞台。

18年に10人気で2着に走ったワーザーも
父はサドラーズウェルズ系のタビストック。外国育成、調教馬です。

対抗アンドヴァラナウト

母父ディーピンパクト。欧州色の強い配合。
タフな非根幹距離でも減速しないルーラーシップに似たタイプ。

ー昨年2着のサラキアもディーブ産駒で池添学厩舎。

同厩舎はヴィクテファルクスもそうですが、
非根幹距離を得意にしてしまう特徴を持ちます。

ディーブでエアグルーヴ牝系は、
気性なども含めて爆発力がある反面、引き出すのが難しい血統。

福永騎手からムーア騎手の乗り替わりで目覚める可能性も十分。
コントレイル、サトノクラウンの東スポ杯のパターンを思い出させます。

デアリングタクトはエピファエア×キングカメハメハ。欧州色が強い配合。

父、母父が同じ同配合に昨年3着のクラヴェル。

イズジョーノキセキも同配合馬。

福島記念

本命はカテドラル。

当レースに相性良く、土曜の福島芝も好調だったダンチヒ持ち。

当レースを連覇したダイワファルコンと同じトニービン持ち。

かつ中山マイルでも高いパフォーマンスを見せた馬。

土曜の傾向からも当レース傾向からも
内寄りの枠で中山マイル重賞を差せる機動力のある馬は有利。

小回りの非主流スピードが問われる舞台得意の池添学厩舎管理馬。